

1989年に設立してから、岩手県国際交流協会は20歳を迎えました。そこで、この20年間の歩みを、クイズとともに、すごろくで振り返ってみます。

START

平成の幕開けとともに、
(財)岩手県国際交流協会
がスタート!

1989

1994



盛岡市大沢川原に
県立国際交流プラザ開館。
**開館準備のため
1回休み**

クイズ[2]
この年、岩手であるスポーツの
世界大会が開催されました。何
の大会でしょうか？
a. フィギュアスケート
b. アルペンスキー
c. ノルディックスキー
**クイズに正解したら
2こま進む**

1991

ソ連崩壊
湾岸戦争勃発

外国人医療ハ
ンドブック発行

1990



盛岡市上田に事務所移転。
**引越し作業のため
1回休み**

機関誌いわて
国際交流発行

クイズ[1]
この年、協会が発行した英文生
活情報紙「Trailblazer」。意味は？
a. 開拓者
b. 旅行者
c. プレザークート
**クイズに正解したら
5こま進む**

*クイズの正解はこのページの下に。

外国人登録者数
2,035人

県公会堂に事務所を構える

国際理解
ワークショップ
開設

1995

日本語教育
事業開始

外国人相談
窓口設置

日本語ボランティア
登録開始

1996

1993

外国人生活
ハンドブック発行

国際交流情報誌発行

1999

英文情報紙
HAKUCHO 発行

2000

医療通訳
養成講座

クイズ[4]
この年、岩手県の外国人登録者数
は何名に達したでしょうか。
a. 3000人
b. 5000人
c. 7000人
**クイズに正解したら
3こま進む**

ミレニアム
フェスティバル
開催

北海道・東北
地区開発教育
セミナー

2001

米国同時多発
テロ事件 (9・11)

チューニジア
音楽交流
開催

地球市民のまちづくり
コーディネーター
セミナー開催

市町村協会
ネットワーク事業
開催

2002

サッカー日韓
W杯開催

クイズ[5]
現在も続く国際交流イベントが
2002年に始まりました。さてこの
イベント名は？
a. おしゃべりプラザ
b. かだるクラブ
c. ちゃっとランド
**クイズに正解したら
2こま進む**

日本語教室
開設

1997

クイズ[3]
この年、岩手県で2つの国の
国際交流員が配置されました。
アメリカとどこの国でしょうか？
a. イギリス
b. フランス
c. 中国
**クイズに正解したら
2こま進む**

中国語情報紙
岩手華人通信発行

岩手県国際交流協会
ホームページ開設

ビッグブラザー・
ビッグシスター
プログラム開始

2009

いわて多言語子育て
ハンドブック発行

世界フェアトレード
デイ開催

ワンワールドフェスタ
開催

在住外国人
子育てサポート事業

2008

クイズ[7]
2009年12月末日現在、岩手
県には何カ国の人が住んでい
るでしょうか？
a. 24カ国
b. 65カ国
c. 122カ国
**クイズに正解したら
1こま進む**

ソロモンの戦鬪の神又ズズズ
協会の守護神! ?トモコ



2003

国際交流ラン

いわてプラネット
メーリングリスト
開設

北京県人会
設立

2004

クイズ[6]
多文化共生いわてづくり事業を開始
しました。さて、多文化共生の考
え方により近いのは？
a. 地域の構成員としていろいろな
文化を理解し尊重しあおう。
b. いろいろな国の言葉を話せる
ようになろう。
c. 多様な生物が絶滅しないよう
保護しよう
**クイズにはずれたら
3こまもどる**

国際交流
情報紙
Jiengo 発行
(日・英・中)

1998

↑折り返し
↑折り返し
↑折り返し

コマ (子トモコ)

Congratulations! 20周年!!

GOAL

(財)岩手県国際交流協会は、まだこ
れからも飛躍し続けます。
今後ともご支援・ご協力よろしくお願
いします。

クイズ[7]
2009年12月末日現在、岩手
県には何カ国の人が住んでい
るでしょうか？
a. 24カ国
b. 65カ国
c. 122カ国
**クイズに正解したら
1こま進む**

いわて多文化こどもの
学習支援ハンドブック発行

2007

いわて版国際理解ハンドブック
世界はともだち 発行

多文化共生アクション
プロジェクト実施

盛岡駅西ロアリーナ5階に
国際交流センターができる
**引越し作業のため
1回休み**

2005

外国人相談
専門員設置

外国人相談日
開設

在住外国人
ネットワーク実施

2005

賛助会員10%
還元事業開始

2005

機関誌
いわて国際交流
英・中版発行

クイズの答え 1-a 2-b 3-c 4-b 5-c 6-a 7-b

20 Years



支援など、とくに必要な場合には会員に呼びかけて支援をしています。会員から集めた古着を、パキスタンで現金化し、現地の小学校の運営費に充てられています。日本はいま食糧自給率40%

35年前に始めた有機野菜の販売も今では9万1千戸に宅配するまでになりました。その有機野菜の生産者と消費者を結ぶネットワークを生かして、世界にも目を向けた取り組みを行っています。国内の農家が生産した商品を扱うという方針ですが、日本で生産できないものや日本の農家に影響を与えないものについては、「フェアトレード」の商品を輸入しています。パレスチナの農道造りやガザ地区への緊急

藤田さんの講演要旨は次のとおりです。



財団法人岩手県国際交流協会の設立20周年式典が2009年10月18日に行われ、多くの県民に集まってもらい、記念行事が行われました。



記念式典

■時間 13:30~14:30
■会場 アイーナ8階804会議室

来賓はじめ、表彰受賞者、国際交流関係団体、歴代の役員、一般人々などが参加して記念式典が行われました。最初に、協会の安藤厚理事長が「協会は、地域レベルの交流が求められていたことに呼応して、民間が中心となり県・市町村企業等の支援・協力のもとに設立された。設立時は2000人ほどであった県内の在住外国人数もおよそ6500人と3倍以上に増え、求められる活動も国際交流から国際協力、多文化共生の推進へと変化してきた。先人たちの精神を教えとし、本県国際交流推進の中核組織として地域に根ざした国際交流活動に引き続き力を注ぎ、物心ともに豊かな郷土いわたづくりに寄与していく」と挨拶しました。続いて、達増拓也岩手県知事、谷藤裕明岩手県市長会会長（盛岡市長）、香山充弘自治体国際化協会理事長が祝辞を述べました。

交流会

■時間 16:00~17:30
■会場 アイーナ8階803会議室

ですが、世界食糧危機が起きてから何とかしようとしても間に合いません。世界の食糧を奪わないためにも、また自分たちの子どもや孫を飢餓に追いやらないためにも、ぜひ今手を打つべきです。

引き続き会場を移して、交流会が行われました。参加者の中には着物姿の人や民族衣装を着た人もいて、会場を華やかに盛り上げてくれました。テーブルには協会エスニックレストランマップ提携店からのさまざまな国のメニューも供され、国際色あふれる料理が並びました。フェアトレ



国際交流・協力・多文化共生推進功労者表彰では、受賞者の活動風景がスライドで紹介される中、達増知事から知事感謝状が石渡隆司さんに、そして安藤厚協会展長から理事長表彰状ならびに理事長感謝状が各受賞者に手渡されました。（受賞者は下に掲載のとおり）受賞者を代表して石渡さんが挨拶しました。最後に当協会20年の歩みを映像で振り返り、式典は終了しました。

記念講演

■時間 14:30~16:00
■会場 アイーナ8階804会議室
■演題 「食を通して世界が見える」
■講師 NGO大地を守る会 会長 藤田和芳 さん

藤田和芳さんは、岩手県胆沢町（現奥州市胆沢区）の稲作農家の生まれ。NGO「大地を守る会」、社会的起業のさきがけとなる「株式会社大地（現株式会社大地を守る会）」の設立に参画し、有機農業運動をはじめ、食糧、環境、エネルギー、教育などの問題に対しても活動を展開しています。

ードカレー料理コンテストで高校生が考案したメニューも再現されました。川村光朗岩手県町村会副会長（矢巾町長）による乾杯の音頭の後、自由に歓談するひとときを過ごしました。海妻矩彦協会元理事長、藤井克己岩手大学学長のスピーチに続き、朝魯門さんが馬頭琴を演奏しました。会場に響きわたるモンゴルの弦の音色に、参加者はしばし歓談を止め聞き入っていた様子です。甲斐直樹国際協力機構東北支部長による閉会の言葉でお開きとなりました。

設立20周年記念式典・記念講演・交流会にご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



受賞者（敬称略）

▽岩手県知事感謝状

石渡 隆司
（元岩手県国際交流協会理事・企画委員長、盛岡YMCA理事長、岩手県インテリジェント交流協会会長）

▽岩手県国際交流協会理事長表彰状

田口 純子
（盛岡北口ターミナルクラブ次期会長）
いわた国際理解教育研究会
（尾中 夏美代表）
奥州市国際交流協会
（佐藤 剛会長）

国際ゾンタ 盛岡ゾンタクラブ
（柴田 和子会長）

日本語交流室「じよい」
（大畑 佳代子代表）

盛岡白百合学園高等学校
（荻原 礼子校長）

盛岡中央高等学校
（富澤 正校長）

▽岩手県国際交流協会理事長感謝状

【出捐協力団体等】

石田家（盛岡市）
株式会社岩手銀行
（高橋 真裕代表取締役頭取）
株式会社北日本銀行
（佐藤 安紀代表取締役頭取）
株式会社東北銀行
（浅沼 新代表取締役頭取）
株式会社和かな
（坂下 陽市代表取締役社長）
【賛助会員】
高田 章（二戸市）
藤村 健三（盛岡市）

【事業協力団体】

岩手県行政書士会
（中澤 弘文会長）
A・Y・C・L
日本語教室「いっほいっほ」
（青山 純子代表）
いわて*多文化子ども教室
むつみっこくらぶ
（村井 好子代表）
オーシャンズ宮古国際交流倶楽部
（佐々木 匡人代表）
川崎 21世紀国際交流クラブ
（佐藤 勇三代表）
日本語サポートクラブNIKK
（村井 浩和代表）
はなまき日本語ポーターズ「ステップ」
（穂高 マツヨ代表）

【事業協力個人】

ゆうの会（熱海 アイ子代表）
山崎 友子（岩手大学教育学部教授）
松岡 洋子
（岩手大学国際交流センター准教授）
千葉 喜秋
（元岩手県国際交流協会企画委員、機関誌アドバイザー）
大高 久枝（元機関紙編集長）
小原 史湖
木村 ゆき子
鷹野 洋子
長岡 美和子
林 裕
村井 好子
【歴代役員】
智田 恵子
（元岩手県国際交流協会理事、評議員）
軽石 陽子
（元岩手県国際交流協会スタッフ）

個人・団体の受賞者それぞれを代表してお二人にメッセージをいただきました

Close Up



日本語教室「いっぽいっぽ」

熱意を持って日本語を指導

2007年に設立。青山純子、笠水上恭子、木坂京子、南館房子、村井ティ子さんの5人で毎週金曜日、盛岡駅西ロアィーナ内で在住外国人の日本語指導にあたっています。日本語教室「いっぽいっぽ」は(財)岩手県国際交流協会設立20周年記念式典で理事長感謝状が贈られました。

私たちは「すき焼き」

日本語をきちんと教えるには体系的に勉強しなくてはならないと思います。勉強会を始めました。この思いを同じくする仲間と新たに日本語教室「いっぽいっぽ」を設立しました。培ってきた経験を生かして、日本語指導の専門家に負けない熱意と努力の姿勢で取り組んでいます。年齢も背景も異なる私たちが一緒に日本語指導に取り組む「いっぽいっぽ」は異なる教材が集まって味を引き出す「すき焼き」のようなグループです。

教科書の分析から始まった勉強会は今も続いています。どのようにしたら理解が進むだろうかと意見交換し、体系的なカリキュラムや教案を練っています。一般の教科書ではわかりにくいところを生徒が理解しやすいよう工夫した「いっぽいっぽ」の教材を用意しています。同じ内容でも学習者の理解度はさまざまです。これでもいいというものはなく、生徒から新たな発見をもらい、それが次の生徒へと還元されていきます。

教える喜びと課題

以前に教えていたバングラデシユの人から「京大の博士課程の外国人招へい研究プロジェクトで来日しました」と上手な日本語で電話をもらいました。途上国の人の中には、日本



岩手県知事感謝状

石渡隆司さん

株式会社十割そば社長。岩手医大名誉教授。盛岡YMCA理事長。岩手県国際交流協会の設立準備委員、企画委員長としてご尽力いただきました。また岩手県ライラント交流協会会長として、ドイツの大学生の研修受け入れを行っています。



岩手県国際交流協会 理事長表彰状

奥州市国際交流協会 会長 佐藤 剛さん

奥州市国際交流協会は2008年度、岩手県内の市町村として初めて多文化共生マスタープランをつくり、同じ住民として在住外国人とともに生活していくための基本方針を定めました。多文化共生を目指して、行政とともに日本語学習支援や情報の多言語化、生活支援などに取り組んでいます。

なグローバル社会に共通した視座として、「異文化に関する相互理解」と「人間としての共通の価値観の確認」を通して、県内の多くの人々が外国の人々と自然に対等な関係を築いていけるような、交流の舞台をつくり上げたいと考えていました。

私個人としては、たまたまドイツで日本の経済社会を学ぶために1年間日本での研修を義務付けられている大学生の受け入れ組織「岩手ライラント交流協会」に関わることになり、県内の多くの企業団体のお世話になりながら、ライラント・フアラツ州立経済大学から来る、ヨーロッパ系とアジア系の相半ばする学生たちを、日本の若者たちと交流させることでいくらか交流活動の実践的な面をも体験することができました。

岩手県の国際交流活動が、私どもの心を広く世界に開かせ、世界とつな結ばれる希望の芽を育んでいられることを祈念して止みません。

奥州市には外国から来たお嫁さんなど外国人が地域に散在していますが、私たちの周りでは日本語での表記しかなかったり、必要な情報が伝わっていなかったりと、外国の方に対する支援がまだまだ手薄です。そこで奥州市国際交流協会は「多文化共生マスタープラン」を策定し、奥州市の施策として取り組んでいます。奥州市として取り組める背景には、市長をはじめ行政の関係者に理解いただいていることが大きいでしょう。今回の緊急雇用対策においても2人の外国人が雇用され、案内表示の翻訳やパンフレットの作成などを進めています。

これも理解があるからこそです。

多文化共生の取り組みのひとつとして、旧町村単位で日本語教室をつくろうとボランティア指導者の養成に力を入れています。日本語教室にしても、行政と連携することは重要です。たとえば、農村部に

住んでいるお嫁さんに奥州市国際交流協会から案内を出しても家族にいぶかしがられて参加しづらいのですが、奥州市の名前で案内を出してもらえると参加しやすいのです。

歴史的に見ても、緯度観測所などの世界と情報がつながる場所があり、国際的視野を持った偉人も多く輩出され、奥州市民は違和感や差別感情なく外国人を受け入れる気質を持ち合わせています。まずは外国人の人がいることを知り、同じ血が流れていると理解し、一緒にできることを考えながら、共に暮らしやすい地域づくりの支援をしていきたいと思えます。



左から、村井ティ子さん、木坂京子さん、青山純子さん

いっぽいっぽ式交流

人が明治維新の頃にもすごいスピードで西欧の知識を吸収していったときのような意欲を感じます。このような人たちに教えているという喜びが日本語の指導を続ける原動力になっています。

コース修了までしっかり勉強してもらえれば、きちんとした日本語が身に付くのですが、ある程度の日本語を覚えると来なくなってしまう人がいます。後にお会いして崩れた日本語を聞くところとがっかりしてしまいます。とくに日本に嫁いできた人は、仕事を見つけて働き始めたり、出産したとたんに忙しくて来られなくなる人が多い。若いお母さん方は子どもの幼稚園のお手紙を読んだり、お母さんどうしの交流も必要です。日本語学習の要望は切実です。勉強している少しの間だけでも無料で託児してもらえれば仕組みがあれば続けられるのにと残念に思います。

自国の人以上におしゃべりできるような日本語授業の合間にお茶の時間を設けて意思疎通をはかっています。タンザニアから来た妊娠中の女性が、出産経験のある中国の女性に、たどたどしい日本語ながらも色々な質問をしていたこともありました。やっぱり不安なんですよ。教

室に來たからこそ気楽に話せたり、情報交換ができるのだと思います。

日本では引越したら、近所の人たちにあいさつに行きますが、アメリカでは先住者のほうから「何かお手伝いできますか」と声をかけるそうです。この場合はアメリカ式のほうがいいですね。新しく来た人には日本人から声をかけていく。学習者たちが小さく「一歩ずつ進むように、私たちも小さくとも一歩ずつ進んで互いに距離を縮めていきたいです。

日本語の基礎だけでなく、漢字を勉強したいという人もいれば、日本語検定を目指している人もいます。で、今後はさまざま要望に応えるためにも、より充実した内容で指導できるよう研さんを重ねていきたいと思っています。同じ思いを持つ仲間が増えていくとうれしいですね。